

久留米大学 バイオ統計センター 公開セミナー

対面形式
&
WEB(LIVE)
配信

上瀧 正三郎 (久留米大学大学院 医学研究科 博士課程4年)

「経食道心エコーを用いた肺動脈カテーテル留置手技の 有効性と安全性-前向き観察研究」

肺動脈カテーテル (pulmonary artery catheter以下PAC) は、心拍出量など重要な循環パラメータを測定できるモニターである。心臓手術患者の周術期管理に用いられているが、PAC留置に難渋することは稀ではない。また、心疾患を有する患者では、留置中に生じる不整脈にも注意が必要である。本研究では、従来のPAC留置方法に比べ、我々が考案した経食道心エコー(transesophageal echography以下TEE)を併用した留置法が、円滑で安全な留置に繋がるか検討した。単一施設、前向き観察研究で、129名の予定心臓手術患者が対象となった。TEE施行者の有無により、対象者は従来群(83名)とTEE併用群(46名)の2群に分けられた。主要評価項目は、5分以内のPAC留置成功率とした。副次的評価項目は、留置中の不整脈発生率とした。統計解析は、交絡因子を調整するために1:1の傾向スコアマッチングを使用した。5分以内のPAC留置成功率は、マッチング前後ともに併用群の方が有意に高かった(マッチング後: 73.7% vs. 100% $p=0.001$)。不整脈の発生率は、マッチング前後ともに2群間で有意差はなかった(マッチング後: 28.9% vs. 18.4% $p=0.42$)。今回用いたTEE併用PAC留置法は、心臓手術を受ける患者、特に留置困難が予想される患者において有用であるかもしれない。

2025年1月16日(木) 18:00~19:00

久留米大学バイオ統計センター【コンピュータ室】

福岡県久留米市旭町67番地

申込方法

下記URLまたはQRコードより、前日17:00までにお申込みください。

<https://biostat-kurume.stores.jp/>



お問い合わせ

久留米大学バイオ統計センター公開セミナー係

✉ biostat_seminar@kurume-u.ac.jp